



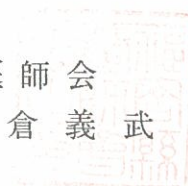
福岡県医師会第425号（総）

平成18年 5月26日



各 医 師 会 長 殿

福岡県医師会
会長 横 倉 義 武



「武見記念賞」並びに「武見奨励賞」受賞候補者の募集について

本件につきまして、公益信託武見記念生存科学研究基金より別添のとおり案内が参りました。

「武見記念賞」は、生存科学とその関連分野において顕著な業績をあげられた概ね60才以上の研究者または実践者を対象とし、その受賞候補者は「推薦方式」により募集しております。

また、「武見奨励賞」は、生存科学とその関連分野において顕著な業績をあげつつある研究者または実践者を対象とし、その受賞候補者は「自薦方式」により募集しております。

つきましては、貴会会員への周知方よろしくお願い申し上げます。

なお、推薦並びに応募がございましたら本会総務課まで別添の推薦書又は受賞申請書をご提出ください。本会にて取りまとめて応募いたします。

平成18年5月10日

関係各位

公益信託武見記念生存科学研究基金
運営委員長 福井 光壽
受託者 中央三井信託銀行株式会社
本店法人営業第二部
公益信託担当部長 白井一信

「武見記念賞」並びに「武見奨励賞」受賞候補者の募集について

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、当基金では、生存科学の研究や実践活動を普及し発展させることを目的に、「武見記念賞」及び「生存科学研究武見奨励賞」を贈呈する制度を設けております。

「武見記念賞」は、生存科学とその関連分野において顕著な業績をあげられた概ね60才以上の研究者または実践者を対象とし、その受賞候補者は「推薦方式」により募集いたしております。

また、「生存科学研究武見奨励賞」は、生存科学とその関連分野において顕著な業績をあげつつある研究者または実践者を対象とし、その受賞候補者は「自薦方式」により募集いたしております。

つきましては、本状添付の『「武見記念賞」受賞候補者推薦要項』をご参照のうえ受賞候補者をご推薦いただくか、または、『「武見奨励賞」受賞者応募要項』をご参照のうえご応募いただきたくご案内申し上げます。因みに、これまでに受賞された方々は別紙一覧表の通りでございます。

なお、“生存科学”の概念については、別添の公益信託設定趣意書をご参照下さい。

まずはご案内まで。

敬 具

添付書類

1. 公益信託設定趣意書（“生存科学とは”の説明にかえて）
2. 「武見記念賞」受賞候補者推薦要項、推薦書
3. 「武見奨励賞」受賞者応募要項、申請書
4. 受賞者一覧表

なお、上記添付書類は、下記の受託者Webサイトにてダウンロード可能です。 http://www.chuomitsui.co.jp/koueki/k_topm.html



公益信託設定趣意書
(“生存科学とは”の説明にかえて)

近時における科学技術の目覚ましい発展は「生命」を対象とする新しい科学即ちライフサイエンスの確立を促し、数多くの成果を挙げつつある。しかし最近における生態学・遺伝子工学などの驚くべき進歩を眺めるとき、あらためて人類の「生存」を正面から採り上げざるをえない状況になっており、しかも既存の科学方法論に拘泥するかぎりこの状況に対応できないことは明白である。

凡ての科学は「生存」問題を前にして古典的な閉鎖的枠組の編成替えを強いられており、自然科学と社会科学という区別すらも止揚して——医学、物理学、化学、工学などは勿論のこと、経済学、法律学、政治学などをも含めて——凡ゆる領域から総合的に「生存」問題に取り組まざるをえないし、諸科学の基礎であり諸科学の成果を実生活に定着させるための哲学、倫理学などもまた、その内容を問いなおさなければならない段階に達しているといえよう。

かくて、われわれは人類の「生存」という概念を基点とし、科学技術を中心に社会科学、哲学など凡ゆる学問の成果を結集して「生存」の形態・機能をマクロ・ミクロの両面から探求し、それらを総合的に把握する新しい生存科学を創造確立することが必要であると考ええる。

そしてこのような生存科学の裏づけがあつてこそ、はじめて未来の人類の生存秩序の確立と福祉の実現が可能となるのであり、生存科学という視点からの取り組みが遅れば遅れるだけ人類の幸福は遠ざかっていくといえよう。

ここにおいてわれわれは生存科学の確立と一層の発展の一助になることを願って本公益信託を設定するものである。

昭和57年9月

公益信託武見記念生存科学研究基金

平成18年度（第17回）「武見記念賞」受賞候補者推薦要項

1. 趣 旨

故武見太郎先生が創造した生存科学の普及・発展を図ることを目的に生存科学とその関連分野で顕著な業績をあげた研究者または実践者を顕彰してその業績を称える。

2. 賞の種類

「武見記念賞」

生存科学とその関連分野で、顕著な業績をあげた研究者または実践者を顕彰する賞。受賞者は概ね60歳以上とする。

3. 受賞候補者の推薦

「武見記念賞」を受けるに相応しい方を、「推薦書」に所要事項を記載して、下記連絡先へ提出して下さい。

4. 受賞者数・賞金額

「武見記念賞」および別途公募する「生存科学研究武見奨励賞」について合計2名。賞金は1人50万円。副賞として記念品を贈呈。

5. 受付期間

7月3日（月曜日）から8月31日（木曜日・当日消印有効）まで。

6. 選考方法

当基金運営委員会で審査し選考する。

7. 選考結果の通知

10月末日までに、推薦者に通知する。採択された場合は、推薦者及び受賞者に通知する。

なお、応募書類は採否に関係なく返却はしない。

▼連絡先 〒105-8574 東京都港区芝三丁目33番1号

中央三井信託銀行株式会社 本店法人営業第二部 公益信託課

（担当：^{しま} 隣）TEL03-5232-8911

受付No.

平成 年 月 日

公益信託武見記念生存科学研究基金

受託者 中央三井信託銀行株式会社 御 中

(〒 -) (電話 - -)

住 所

推 薦 者

氏 名

印 (職 業)

「武見記念賞」受賞候補者推薦書

下記の方を受賞候補者として推薦致します。

受 賞 候 補 者	ふりがな 氏 名		男 女	生 年 月 日	19 年 月 日生まれ (歳)
	住 所 (〒 -)				
	所 属 機 関	名 称		職 名	
	所在地 (〒 -)			(電話 - -)	
① 受 賞 候 補 者 略 歴			年 月		
年 月			年 月		
年 月			年 月		
年 月			年 月		
② 受賞の対象となる研究または実践のテーマ					

③ 研究又は活動の具体的な内容

④ 主要論文リスト又は活動の成果の記録等

注：資料を3点以内でなるべく添付願います。

⑤ 推薦理由

公益信託武見記念生存科学研究基金

平成18年度（第16回）「武見奨励賞」受賞者応募要項

1. 趣 旨

故武見太郎先生が創造した生存科学の普及・発展を図ることを目的に生存科学とその関連分野で顕著な業績をあげつつある研究者または実践者を顕彰してその業績を称える。

2. 賞の種類

「生存科学研究武見奨励賞」

生存科学とその関連分野で、創造的な研究や実践的な活動を行い業績をあげつつある方を顕彰する賞。

3. 受賞者数・賞金額

「生存科学研究武見奨励賞」および別途推薦により募集する「武見記念賞」について合計2名。賞金は1人50万円。副賞として記念品を贈呈。

4. 受付期間

7月3日（月曜日）から8月31日（木曜日・当日消印有効）まで。

5. 選考方法

当基金運営委員会で審査し選考する。

6. 選考結果の通知

10月末日までに申請者に通知する。

なお、応募書類は採否に関係なく返却はしない。

▼連絡先 〒105-8574 東京都港区芝三丁目33番1号

中央三井信託銀行株式会社 本店法人営業第二部 公益信託課

（担当：^{しま}隣）TEL03-5232-8911

受付No.

平成 年 月 日

公益信託武見記念生存科学研究基金

受託者 中央三井信託銀行株式会社 御 中

申 請 者



「武見奨励賞」受賞申請書

下記の通り、受賞候補者として申請致します。

★ この申請書類に記載する事項は、助成金等の支給対象者の選考等、^当公益信託の運営に必要な範囲で、^当公益信託の受託者・運営委員・信託管理人が取得・利用すること、また、支給が決定した場合は、氏名、所属、研究テーマ等の情報が、主務官庁へ提供される他、一般に公開されることについて、同意のうえ応募します。

申 請 者	ふりがな 氏 名		男 女	生 年 月 日	1 9 年 月 日生 (歳)	
	住 所	(〒 -) (電話 - -)				
	所 属 機 関	名 称		職 名		
	所在地 (〒 -) (電話 - -)					
① 申 請 者 略 歴			年 月			
年 月		年 月				
年 月		年 月				
年 月		年 月				
② 受賞の対象となる研究または実践のテーマ						

③ 研究又は活動の具体的な内容

④ 主要論文リスト又は活動の成果の記録等

注：資料を3点以内でなるべく添付願います。

⑤ 申請理由

公益信託武見記念生存科学研究基金
武 見 賞 受 賞 者 一 覧 表
 (職業は受賞時のもの)

1. 武見記念賞

	受賞者(職業)	受 賞 理 由
第1回 (昭和62年度)	H. H. Hiatt (ハーバード大学教授)	包括医療政策の研究を指導するとともに、「国際保健 武見講座」を同大学に設立した
	土屋 健三郎 (産業医科大学学長)	「生存の理法」の具体化のため、衛生学を始めとする 産業医学を通じ生存科学の発展に多大の貢献をした
第2回 (平成1年度)	大瀬 貴光 (元国連アフリカ経済委員 会顧問)	生存科学の理念を身をもって実践した
	矢口 光子 (農村生活総合センター専 務理事)	我国の農村における生活の安定と福祉の向上のために 理論と実践をもって貢献した
第3回 (平成3年度)	W. W. Leontief (ニューヨーク大学教授)	産業連関分析による公害防除モデルの創始と医療モデ ルの構築を行い生存科学の発展に多大の貢献をした
	中尾 喜久 (自治医科大学学長)	大学の教育を通じて「地域医療」の理念を実践し「健 やかな生存」という理想の実現に多大な貢献をした
第4回 (平成5年度)	国井 長次郎 (財)保健会館理事長)	寄生虫予防・家族計画等の運動を全国で実践すると共 に、海外で寄生虫予防・栄養・家族計画のインテグレ ーション運動を展開した
第5回 (平成6年度)	若月 俊一 (佐久総合病院総長)	農村医療の拠点である佐久病院での実践を通して農村 医学を振興し、地域包括医療体制を先進的に確立した
第6・7回 (平成7・8年度)	該当者なし	
第8回 (平成9年度)	江草 安彦 (社会福祉法人旭川荘理事 長)	旭川荘及び川崎医療福祉大学での実践を通じて障害者 高齢者の医療福祉の向上と理念の実現に貢献した

	受賞者（職業）	受賞理由
第 9 回 (平成10年度)	該当者なし	
第 10 回 (平成11年度)	唄 孝 一 (北里大学客員教授)	「医療における法と倫理」の在り方の研究実績及び 医学部・病院における実践的課題への貢献
第 11 回 (平成12年度)	宮 崎 亮 (王滝村診療所所長)	アフリカ・アジアの最貧地方に身を投じ、20年余に 亘り献身的現地医療を行った実践力と純粋さ。
第 12 回 (平成13年度)	澤口 彰子 (東京女子医科大学 ・副学長)	法医病理学における窒息論の今日的展開と、東京都監 察及び警視庁嘱託医としての社会医学的応用実践
第 13 回 (平成14年度)	該当者なし	
第 14 回 (平成15年度)	小林 登 (国立小児病院名誉院 長)	子どもをめぐる諸問題の解決にあたり生存科学の実践と してこれを行ない、子ども学の体系づけを試みるなど育 児、保育、教育の問題解決に多大の貢献をした
同	武見記念特別賞 リンカーン・チェン (ハーバード大学教授)	初代ハーバード大学武見記念講座教授として数多くの 武見フェローを育て、又途上国の健康開発にも尽力し、 世界の貧困対策に大きく貢献した
同	武見記念特別賞 マイケル・ライシュ (ハーバード大学教授)	ハーバード大学武見記念講座を極めて有効に維持運営し 百数十名の武見フェローを世界に送り出し、生存科学の普 及に貢献すると共に、我国の医療行政に関する研究におい ても多大の貢献をした
第15 回 (平成16年度)	該当者なし	
第 16 回 (平成17年度)	該当者なし	
	以下余白	

2. 武見奨励賞

	受賞者（職業）	受賞理由
第1回 (昭和63年度)	推薦者なし	
第2回 (平成2年度)	花田 恭 (厚生省人口問題研究所)	人口統計学を駆使して死亡水準低下の社会経済的要因分析と社会経済への影響の計測を行った
	◎グループ研究 土方 正夫 (早稲田大学社会学部) 齊木 崇人 (神戸芸術工科大学環境デザイン) 掛谷 誠 (京都大学文化人類学)	筑波大学大学院環境科学研究科で、「流域文化の成立と定住様式の変遷に関する文明生態学的研究」に参加し、地域の生存に係る諸問題への研究と実践に努力され、生存科学研究所の研究に参加して実践的研究を継続している
第3回 (平成4年度)	津谷 喜一郎 (東京医科歯科大学難治疾患研究所)	伝統医学の国際的普及・発展活動に貢献すると共に、難治性疾患を含む各種疾患に対する臨床試験の方法論の開発に努力をしている
	大林 雅之 (産業医科大学医学部)	「生存科学としてのバイオエシックス」に関する科学哲学的研究で業績を挙げている
第4回 (平成6年度)	該当者なし	
第5回 (平成7年度)	卜部 文麿 (卜部医院院長)	地域における精神衛生保健の推進及びバイオエシックスの研究と普及に多大な貢献をしている
	真柳 誠 (北里研究所医史学研究部)	東アジアに於ける伝統医学と医療文化の伝播と交流に関する調査研究及びこれらの文献の復刻と普及に多大な貢献をしている
第6回 (平成8年度)	推薦者なし	
第7回 (平成9年度)	該当者なし	

	受賞者（職業）	受賞理由
第8回 (平成10年度)	藤野昭宏 (産業医科大学 助教授)	産業医学、特に産業生態学と生存科学の関係についての研究に注力
第9回 (平成11年度)	該当者なし	
第10回 (平成12年度)	該当者なし	
第11回 (平成13年度)	該当者なし	
第12回 (平成14年度)	該当者なし	
第13回 (平成15年度)	該当者なし	
第14回 (平成16年度)	岡原 猛 (堺市医師会理事)	堺市学童集団下痢症（O157）における溶血性尿毒症症候群発症グループのフォローアップ活動に対し高い評価を得る
第15回 (平成17年度)	後藤信哉 (東海大学医学部 助教授)	動脈系血栓性疾患を症状が発現する臓器にかかわらずアテローム血栓症として包括的に対応する研究が評価された
同	宮本敏伸 (旭川医科大学医学部 助手)	今日の社会問題である少子化の原因の一つとして男子不妊症の解明というユニークな着眼研究が評価された
	以下余白	